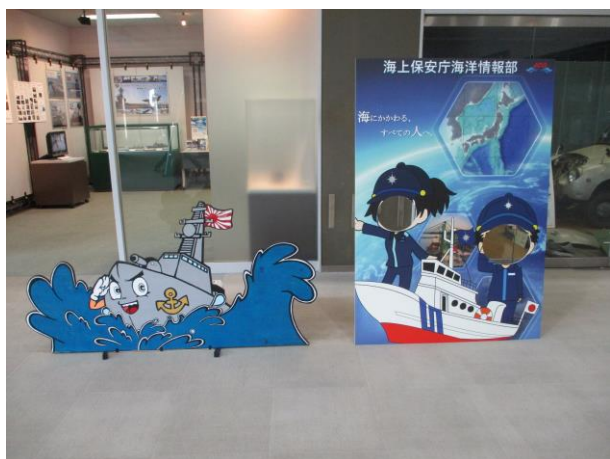
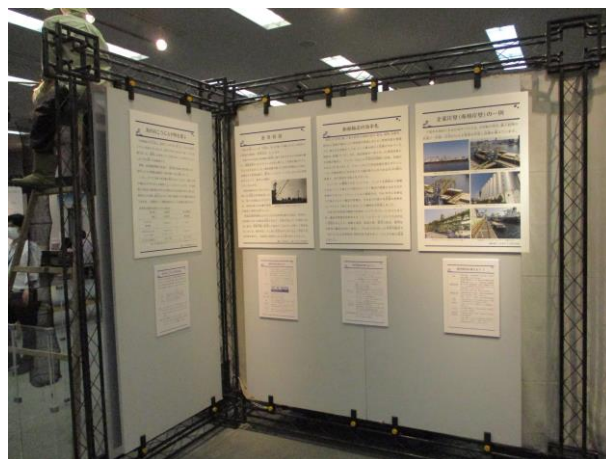


## 千葉県立現代産業科学館

### 「うみ・千葉めぐり～魅力あふれる海の仕事～」

開催期間：2025年10月11日（土）～2025年11月30日（日）



#### 【企画展の内容・目的】

- 海に関わる仕事を第1次～第3次の産業に分けて紹介した。仕事紹介に併せ、職人の技術や職業観を紹介することで、特に児童生徒への職業教育を目的とした。
- 絵本の読み聞かせやポンポン船作りなどの工作教室、自衛隊による手旗信号の体験教室など、未就学児や児童を主な対象とする付帯事業を実施した。未就学児や児童が海に関係する内容に親しみ、興味を持つことを目標とした。また体験するだけでなく、各種イベントの講師には職業紹介も依頼し、子どもたちが海に関わる職業を認識できるようにした。

## 1. 企画展示の内容

■開催期間：2025年10月11日（土）～2025年11月30日（日）

■開催場所：千葉県立現代産業科学館 企画展示室

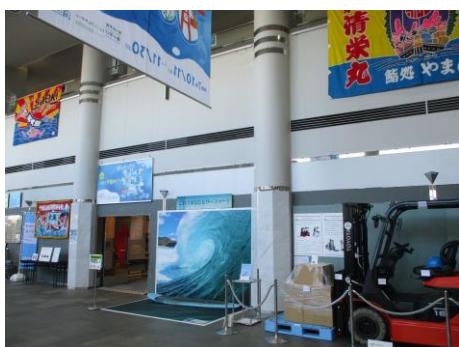
■入場者数：11,591人



千葉県立現代産業科学館 外観



企画展会場 入口



エントランスでは、本企画展のイメージづくりを図るため、大漁旗・万祝・ベカブネを展示し、海のイメージや賑やかな雰囲気演出した。またサーフボードを用いたフотスポットやフォークリフトを展示し、マリンスポーツや倉庫内での仕事など、企画展の意図を示すよう努めた。特にサーフボードでの写真撮影やフォークリフトのフォーク部分を稼働させるパフォーマンスは、人気を博した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

## ●第1章 変わっていく漁業



県内の漁業の様子について紹介した。銚子・和田浦・浦安の漁港で江戸後期～昭和中期まで使われていた漁具を展示し、漁具の扱い方や対象魚、地域ごとの特色などを紹介した。特に和田浦は現在でも続くクジラ漁の拠点があり、国内でも珍しい存在である。見学者はクジラを撃つグリーナー砲や、クジラの解体に用いる大包丁などの迫力を感じているようであった。

体験コーナーでは、千葉県で獲れる魚を紹介し、魚釣りの模擬体験を用意した。子どもは魚の名称を覚えたり、保護者は魚の分布を確認したりと、楽しみながら学習していた。

最新のハイブリッド養殖に関する企業の取り組みは、動画とパネルのみの展示となったが、各種メディアでも取り上げられており、足を止めてパネルを読み込む見学者も多かった。

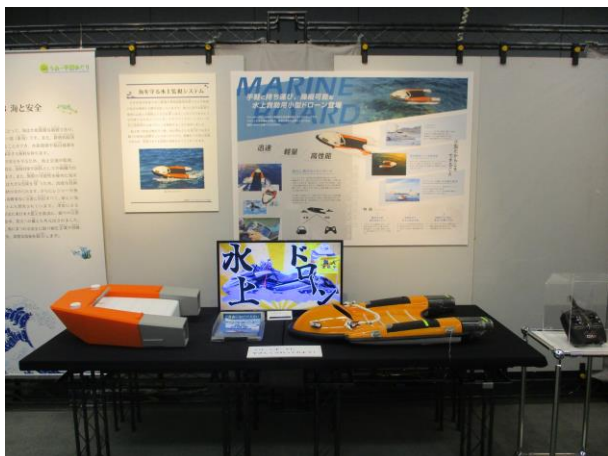
## ●第2章 千葉の発展を支える千葉港～港で働く～



主に千葉港の様子について紹介した。千葉港の構成や港湾物流全体の流れ、活躍する大型機械の様子、地域のロジスティクス業者の取組、天井クレーンシミュレータなどを展示した。千葉港の紹介では、パネルと動画（コンテナクレーン稼働の様子、RO-RO 船への積み込みの様子）を用い、普段は立ち入ることができない場所や船内の様子、専門チームスタッフによる車の搬入作業の様子などに、足を止める見学者が多かった。

体験コーナーでは、天井クレーンシミュレータの模擬体験を実施した。時折クレーンの経験者が体験することもあり、操作や実際の現場のことについて、家族や仲間内で話題となっていた。またロジスティクス工場のジオラマも展示され、工場の仕組みを知ったり、扱う薬品が日常生活のどのような製品になるのかを学んだりすることができていた。

### ●第3章 海と安全



主に海に関する安全対策と海洋調査に関する資料を展示した。安全対策については、一般家庭への設置を想定した防災シェルターや、水上ドローンを活用した新しい海難救助システム、海上自衛隊の活動を紹介した。特に防災シェルターは、実際に中に入る体験ができ、多くの見学者が体験していた。近年の様々な災害のことを考え、個人レベルでの災害対策の必要性を考える契機となっていた。

海洋調査については、無人海底調査機と海上保安庁海洋情報部の活動を紹介した。海上保安庁海洋情報部からは過去の海図や調査器具を借用し、海図の重要性について学んだり、過去の調査器具から人力での苦労や努力を学んだりすることができていた。

## ●第4章 海に親しむ



主に海に関する職業を学ぶ学校の紹介と、マリンスポーツ、子ども向けアプリの紹介を行った。千葉県には海洋関係について学ぶことができる県立高校が3校あり、生徒作品や実習道具、缶詰などの実習製品を展示した。また横浜にある港湾物流に関する短期大学校の様子も紹介した。見学者の中には、将来の進路選択の参考にとパンフレットを持ち帰る人もいた。

千葉県のマリンスポーツとしてはサーフィングが有名であり、サーフボード職人とウエットスーツ職人の技術を紹介した。製品の原料や完成品、製品の今昔を比較して展示するなどして、技術の特徴や製品としての完成度の高さを示した。実際に製品に触れてもらうことで、職人のこだわりや技術の高さを感じてもらうことができた。子ども向けアプリは、海に関わる仕事を体験できる内容であり、小さな子どもも親しみを持って楽しむことができていた。

### 【来館者の声】

- 使う日が来ないことを願うが、このような（防災）シェルターがあると、いざというとき安心なのかなと思いました。
- やはり海はとても大切。特に千葉県は海に囲まれておりとても身近で守っていかなければならない。
- テーマパークが出来る前は、もっと生き物が多い海だった。今は昔ほど海がきれいではないだろうから、今よりきれいになるよう生活していきたい。
- 海の仕事には色々あることがわかった。
- 化学薬品を、海を通じて運び出す過程に触れる機会は日常ではありません。ジオラマという全体が見渡せることで視覚的に理解することができました。

## 2. 関連事業の内容

### ■講演会「東京湾と海の森づくり」

（千葉県立現代産業科学館展示・運営協力会事業）

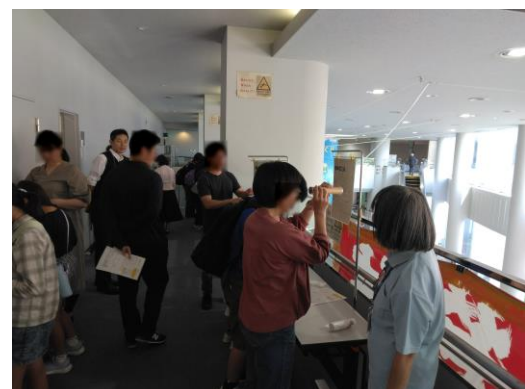
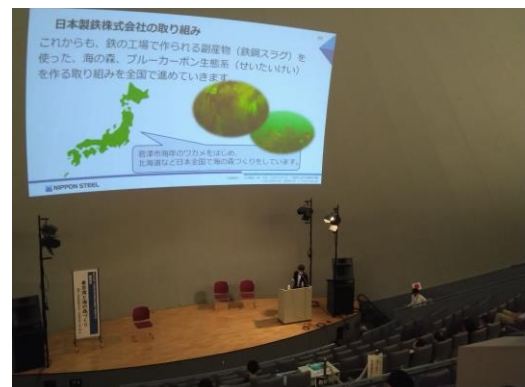
【開催日時】令和7年10月18日（土）13:30～14:30

【開催場所】千葉県立現代産業科学館 サイエンスドーム

【参加者数】66人

【実施内容・目的】

- 講師 日本製鉄株式会社 主幹研究員 吉村航 氏
- 日本製鉄株式会社が行っている、鉄鋼スラグを用いた藻場の再生に関する取り組みについての講演を実施した。その後、海洋プラスチックを利用した万華鏡づくり体験も行った。
- 科学技術に関する講演を通して、来館者の科学に対する興味・関心を向上させるとともに、企画展と関連性のある内容を取り上げることで、企画展の広報活動及び来館者数の増加に寄与することを目的とした。



再生に利用する鉄鋼スラグの生成過程までスライド資料で確認し、藻場の再生が海にどのような影響を与えるかを、具体例や画像を交えながら、丁寧に解説していただいた。参加者は講師とやり取りをしつつ、意欲的に参加していた。小学生からも環境に関する質問があり、環境問題に対する関心が幅広い世代で取り上げられていることを実感できた。

講演後は、中学生以下の参加者に海洋プラスチックを用いた万華鏡を配布した。

## ■読み聞かせ「海は広いな大きいな」（おにたからとい連携事業）

【開催日時】令和7年10月18日（土）11:00～11:40

【開催場所】市川市中央図書館こどもとしょかん

【参加者数】24人

【実施内容・目的】

- 講師 市川市中央図書館職員
- 主に未就学児を対象として、海に関わる絵本の読み聞かせを行った。
- 海に関わる物語や、海の生物が登場する絵本を取り上げたほか、海の生物の特徴クイズやリズム体操も実施した。
- 参加者に海の生物に関する知識を身につけてもらい、海への親しみを持ってもらうことを目的とした。



主に未就学児を対象として、海や海洋生物に関わる内容の絵本の読み聞かせを行った。海が場面として登場する絵本を扱った他、イカやタコの足の本数クイズなども実施した。参加者は意欲的にクイズに答えたり、集中して読み聞かせに耳を傾けたりしており、海に関わる様々な事柄への興味・関心を示していた。最後に当館職員が簡易顕微鏡を用いた観察方法を紹介し、当館への見学を促した。

## ■ポンポン船をつくろう

【開催日時】令和7年11月1日（土）

①10:00～11:00      ②14:00～15:00

【開催場所】千葉県立現代産業科学館 体験学習室

【参加者数】46人

【実施内容・目的】

- 講師 当館主任技術員
- ポンポン船を製作することで、熱と水蒸気による推進の仕組みを学んだ。
- 船の種類や仕組み、科学や航海技術の発展に伴う海の活用について触れ、船や海、科学への興味・関心を高めることを目的とした。



ポンポン船の実験工作を行った。熱と水蒸気により推進力が発生する仕組みを説明したうえで、工作に取り組んだ。参加者は試行錯誤をしながら工作に励み、全員が船を動かすことに成功していた。特に船が動き出す瞬間には、声を上げたり「頑張れー」と応援したりするなど、参加者の気持ちが大いに盛り上がっている様子が見受けられた。解散後も、追加の質問をしたり、船づくりの工夫について話し合ったりする参加者もあり、熱心に取り組んでいた。

### 【来館者の声】

- 海を想いながら工作を楽しめた。
- 船の移動について学び、とてもためになり、楽しかった。
- ポンポン船が動く仕組みがわかった。

## ■海図の紙バッグをつくろう

【開催日時】令和7年11月8日（土）

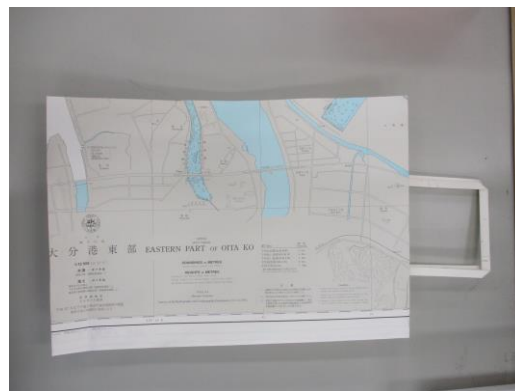
①10:30~11:00      ②13:40~14:10

【開催場所】千葉県立現代産業科学館 体験学習室

【参加者数】19人

【実施内容・目的】

- 海上保安庁海洋情報部企画課職員
- 海上保安庁の海図を用いて、紙バッグの作成を行った。
- 海上保安庁の概要や、海洋情報部の仕事内容について、紹介した。
- 海図バッグの作成を通して海上保安庁職員と触れあい、海上保安庁の仕事への理解と興味・関心を高めることを目的とした。



講師から、海上保安庁や海洋情報部の仕事、海図について説明を受けた。その後、海図を用いた紙バッグ作りに取り組んだが、折り紙のように紙を折り込む工程など難しい場面では、保護者の協力を得ながら進めた。また、折り方を調整することでバッグの大きさを変えられるため、参加者それぞれが好みのサイズに仕上げることができていた。

参加者の中には、特に海図に興味を示す人もおり、解散後も熱心に質問をするなど、講師とのやり取りが続いていた。

### 【来館者の声】

- 自分も実際の海図を手に入れたと思った。
- 海図のことがすごく勉強になった。
- いろんなことについて勉強になった。

## ■作って学ぼう「イカキャッチャー」！～イカは何を食べるのかな？～

【開催日時】令和7年11月15日（土）

①10:30～11:00      ②11:40～12:10

③13:40～14:10      ④14:50～15:20

【開催場所】千葉県立現代産業科学館 体験学習室

【参加者数】40人

【実施内容・目的】

- 講師 東京大学大気海洋研究所 小川展弘氏・阿瀬貴博氏・羽山和美氏
- イカの生態についての説明を受けた後、イカの触腕の動きを模した玩具を作り、餌を捕まえる体験を行った。
- イカの体色の変化や、触腕という部位の名称や役割などについて学び、イカを始めとする海洋生物への興味・関心を高めることを目的とした。



体色の変化や個体による生殖行動の違い、各部位や触腕の特徴などについて説明を受けた。その後、触腕を模した玩具作りを行い、餌を捕まえる体験をした。餌にはイカが実際に捕食する生物とそうではない生物が用意され、背面にはそれぞれの名称や特徴が記載されていた。イカを始めとする様々な海洋生物について学ぶことができた。参加者の中には、大人顔負けの知識を持って講師に質問する児童や、イカの生態に興味を持ち始めた保護者の姿も見受けられた。

### 【来館者の声】

- イカのごはんについて学べた。
- イカの大きさや色など、環境や誕生日の早さによって変わること。
- イカは2本の触腕があること。
- イカキャッチャーだけではなく、イカの知識も深まり、良かったです。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

## ■手旗信号と国際信号旗を体験しよう（制服着用体験含む）

【開催日時】令和7年11月22日（土）

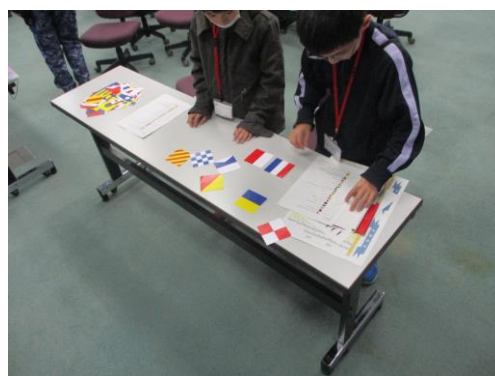
- ① 9:30～10:10      ② 11:00～11:40  
③ 13:30～14:10      ④ 15:00～15:40

【開催場所】千葉県立現代産業科学館 研修室

【参加者数】46人（制服着用体験は51人）

【実施内容・目的】

- 講師 自衛隊千葉地方協力本部、市川募集案内所
- 海上自衛隊の仕事内容について説明を行った。
- 手旗信号の実演や、国際信号旗を用いた意思疎通体験などを行った。
- 各種体験を通して海上自衛隊職員と触れあい、海上自衛隊の仕事への理解と興味・関心を高めることを目的とした。
- 制服の着用体験も併せて行った。



海上自衛隊の仕事、特に航海科の仕事内容について説明を受けた。その後、手旗信号の意味や使用される場面、国際信号旗の役割などの説明を受け、実演を行った。講師の説明を聞きながら手旗信号を体験し、参加者同士で息を合わせながら取り組んだ。手旗の内容をクイズ形式で読み解いたり、国際信号旗が使われている映画の一場面が紹介されたりと工夫が凝らされており、参加者全員が楽しみながら活動することができた。

制服着用体験は、手旗信号の参加者以外にも多くの来場者が体験した。写真撮影だけではなく、自衛隊職員に質問をする場面もあり、会場は活気に溢れていた。

### 【来館者の声】

- 海の上で、手旗信号や国際信号旗で会話ができるのがすごい。
- 声が届かないから、手旗信号の必要性を感じた。
- 海の安全は色々な人によって守られていると思った。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

## 【事業全体のまとめ】

「海の学びミュージアムサポート」の支援を受けるにあたり、各種提出物等の作成に関して他館の取り組みの様子を学ぶ機会が増え、担当者とやり取りを通じて、それらを当館の企画展に活かすことができたように感じている。

企画展のテーマである「海」と、当館のテーマである「科学」「産業」を組み合わせ今回企画展を実施した。アンケートの結果を見ると、未成年者からは「海をきれいにしようと思った」や「魚の様子が分かった」など、海そのものに関する感想が多く、成人からは「防災シェルターが必要だ」や「港湾物流の重要性を学べた」など、技術や仕事に関する感想が多く寄せられた。年齢によって捉え方や学び方に違いがみられ、大変興味深い結果となった。

また、千葉県海に関する事柄を多く取り上げたことで、「千葉のことが分かってよかった。」等の感想も多く、県民のアイデンティティーの醸成や、千葉の魅力発信につながったと感じている。さらに、見学者から協力企業への問い合わせがあったり、協力企業同士の繋がりが生まれたりするなど、企画展を通じて、会場内の展示に留まらず、会場外でも新たな交流が生まれた。展示をきっかけに広がるこうした交流が確認できたことは、本企画展の意義をさらに高める成果である。

## 3. 主な連携・協力先について

| 連携・協力先名称            | 連携・協力の内容         |
|---------------------|------------------|
| 1. 東京大学大気海洋研究所      | ワークショップの講師としての協力 |
| 2. 浦安市郷土博物館         | 資料借用             |
| 3. 勇魚文庫             | 資料借用             |
| 4. 外川ミ二郷土資料館        | 資料借用             |
| 5. 港湾職業能力開発短期大学校横浜校 | 資料借用             |
| 6. 銚子市教育委員会         | 資料借用             |
| 7. 千葉県立銚子商業高等学校     | 資料借用             |
| 8. 千葉県立大原高等学校       | 資料借用             |
| 9. 千葉県立館山総合高等学校     | 資料借用             |
| 10. 千葉県立中央博物館       | 資料借用             |

## 4. 主な広報結果について

| 掲載媒体名      | 見出し、掲載日                             |
|------------|-------------------------------------|
| 1. 読売新聞    | うみ・千葉めぐり 2025.10.10                 |
| 2. 毎日新聞    | 市川・県立現代産業科学館 海の仕事、わくわく体験 2025.10.12 |
| 3. ちば県民だより | 現代産業科学館 企画展 2025.11.5               |

以上

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。